

未来へ「羽ばたく」羽村

「羽村」という地名は、阿蘇神社に残る天文5年（1536年）に書かれた棟札（工事の由緒や建設年月などを書いて棟木に打ち付けた札）に記載があり、中世からの歴史があることが分かります。

昭和31年、西多摩村から町に変わる際に、躍進の象徴「羽ばたく羽村」という意味を込めて「羽村町」という名称になりました。市名を公募した際にも、駅や郵便局、堰などにも「羽村」が使用されていることから、「羽村市」を希望する声が多くありました。「羽村」の名称が長い歴史とともに、広く使用され、多くの方に愛されていることから、「羽村市」が選ばれたのです。

まちづくりの歩み

市制施行以降、羽村市の将来像を次のように描き、その実現に向けて取り組んできました。

- ◆「人と自然にやさしく 活力あふれるまち はむら」（第三次羽村市長期総合計画）
 - ◆「くひとに心 まちに風 いきいき生活・しあわせ実感都市 はむら」（第四次羽村市長期総合計画）
 - ◆「ひとが輝き みんなでつくる安心と活力のまち はむら」（第五次羽村市長期総合計画）
- 令和4年度から始まる第六次羽村市長期総合計画では「まちに広がる笑顔と活気 もっと！くらしやすい まちはむら」を将来像とし、未来への歩みを進めます。

数字で見る羽村市の30年

人口（各年4月1日）	
平成3年	52,756人
令和3年	54,622人
世帯数（各年4月1日）	
平成3年	19,027世帯
令和3年	25,864世帯
児童・生徒数（市内小・中学校 各年5月1日）	
平成3年	5,997人
令和3年	4,113人
予算規模（一般会計当初予算）	
平成3年度	156億1,000万円
令和3年度	222億2,600万円

図書館旧館▶現在の図書館は平成13年に開館しました



市制施行30周年記念事業 実施中!

詳しくは市公式サイトまたは今後の広報はむらで

記念事業には、市制施行30周年記念ロゴマークを付けて、お知らせしています。

◆予定している主な記念事業◆
「未来の羽村を考える」意見交換会
小・中学生が、自分たちが大人になる10年後、20年後の羽村について考えます。意見交換会の様子は、テレビはむらの番組で見ることが出来ます。

「はむらの魅力発見!」
絵画・映像コンクール
小・中学生が、未来に残したい羽村の好きなところや未来予想図を、絵画や映像で表現してください。
受賞作品の表彰は10月31日(日)の記念式典で行います。作品展示は令和4年1月を予定しています。

◆市内事業者も記念事業・商品で参加◆
市内事業者が、市制施行30周年を記念した商品販売やサービスをしています。

市制施行30周年商品の例

- 30周年ロゴマーク付きの新品販売中!【中村販売所(羽東一丁目)】
- 小作本町町内会では、30周年ロゴマーク入りクリアファイルとペンを記念に会員に配布!
- 11月までは、毎月30日は重宝おすすめ割引!【東寿司(五ノ神二丁目)】
- ロゴマークは、株式会社アサヒ(羽中三丁目)で入れました!

詳しくは市公式サイトへ。

◆テレビはむら特別番組◆
市制施行30周年を記念し、「広報はむらの表紙で振り返る羽村市の30年」「羽村市30年のあゆみ」などの特別番組を放映します。
※動画は、YouTube「東京都羽村市公式動画チャンネル」でもご覧いただけます。



未来

羽村市や自分の未来について、市民の皆さんの期待や希望、夢を伺いました。



羽村市町内会連合会 会長 市川 二三男さん

町内会連合会は、活動を通じて、誰もが安心して暮らせるまちを目指してきました。今後も、より多くの方に町内会・自治会に加入していただき、親睦を深め、爽やかで明るく楽しい活気あふれたまちになるよう、一丸となってまい進していきたいですね。

多様な生き物が育まれる豊かな多摩川を、次の世代にも大事にしてもらいたいですね。(40代・男性)

子どもだけの時間にサポートがあると、安心して子育てができてより住みやすいまちになると思います。(30代・女性)

野球の練習ができる場所がもっとあるといいです。(小学生・男子)

自然の中で暮らしたいので、このまま緑豊かな羽村であってほしい。(30代・男性)

「音楽のあるまちづくり」に取り組む羽村市に住むことができ、音楽家を目指す上で大きな支えになっています。世界で活躍するギタリストを目指して、これからも頑張っていきます。

クラシックギタリスト 大谷 恵理架さん



© Media Calm



小さい頃から家族や友達、みんなで楽しめる羽村市動物公園は思い出の場所です。清流多摩川を背景に桜やチューリップの花があふれるまち、そんな羽村が大好きです。これからも安心して暮らせる、優しい羽村市であり続けてください。

アーティスト さなの森 SANAさん

羽村がもっと都会的になって、買い物やエンタメ施設が充実すると嬉しいです。(20代・男性・女性)

羽村の豊かな自然をうまく活用した、若い世代が楽しく子育てできるまちになるといいですね。(60代・女性)

たくさんの方が来てくれるようなおしゃれなカフェを羽村につくりたい。(10代・女性)

畑での野菜作りやお酒を、まだまだ楽しみたいです。(80代・男性)

これからも、子どもたちがソフト・キックボールを通じて、地域に活気をもたらしてくれるように見守ってみたいです。(30代・男性)

はやくおじいちゃんになって、温泉に入ってゆっくり暮らしたい。(小学生・男子)

おばあさんにしか似合わないファッションを追求します!(60代・女性)

よその子も自分の孫のように褒めて叱れる爺婆がたくさんいるまちになると安心ではないですか。(50代・女性)

小・中学校に吹奏楽団などがあることで、子どもたちが音楽に触れる機会が多いことが羽村の魅力の1つだと感じています。これからも、子どもたちが音楽をはじめとするさまざまな文化・芸術に対する理解を深めることができる環境が続いてほしいです。



羽村市魅力発信市民記者 伊藤 大さん

特に記載がない場合の受付時間は土・日曜日、祝日を除く午前8時30分～午後5時です。詳しくは、市公式サイトをご覧ください。